

大志を育む



令和5年11月30日

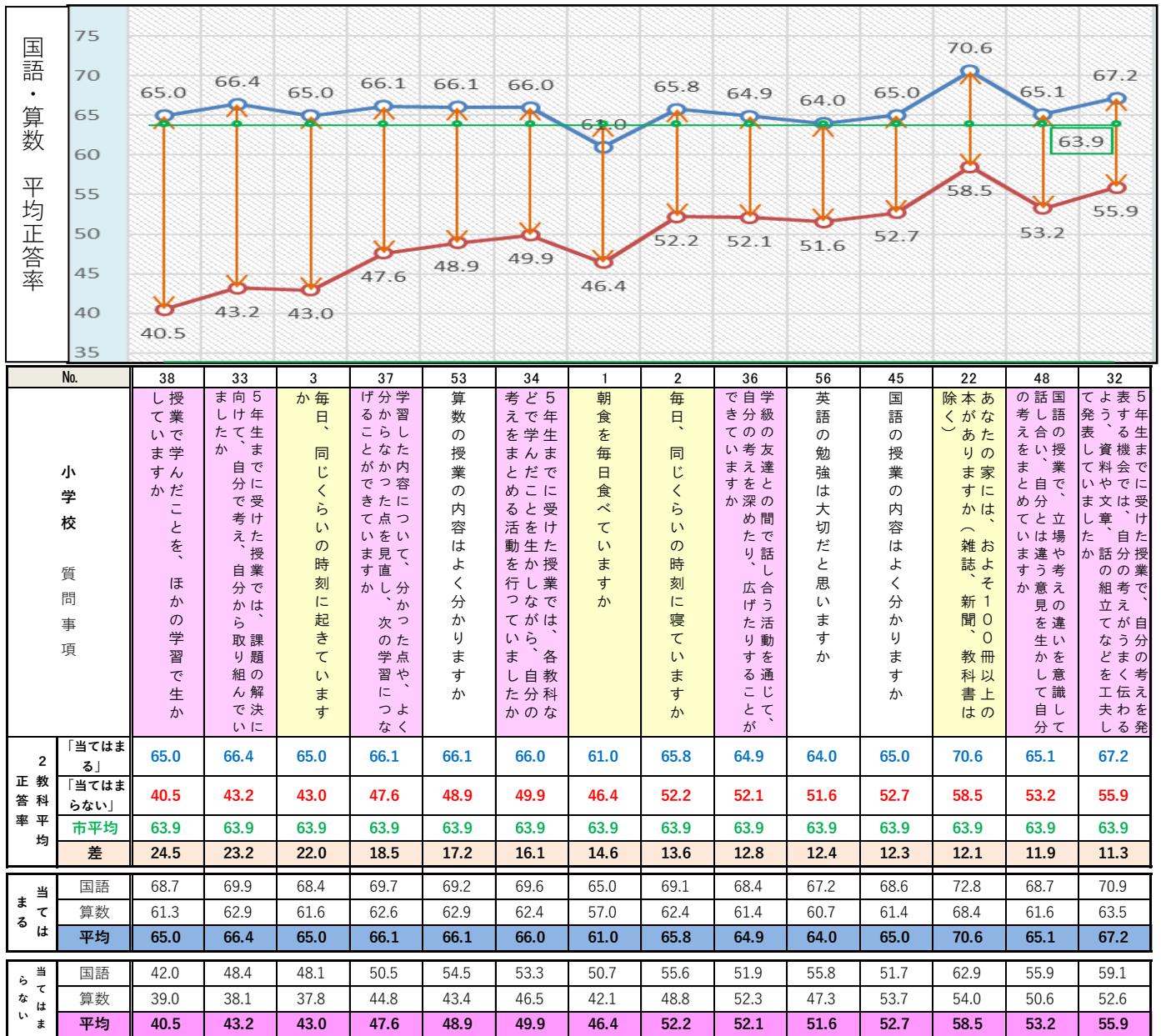
教育委員会だより

No.55

発行：北広島市教育委員会

全国学力・学習状況調査 クロス集計より

北広島市教育委員会 学校教育課
指導主事 中村 伸次



令和5年度全国学力・学習状況調査が、4月18日（火）に実施されました。北広島市の調査結果の詳細については、11月9日（木）に結果報告書が北広島市の教育委員会のホームページに掲載されました。また、市内各小中学校、市内各出張所、団地住民センター、市立図書館、市立図書館大曲分館にて閲覧できるようになっています。

上図は、クロス集計のグラフと表（小学生）です。クロス集計とは、複数の項目を比べる統計的な手法の一つです。各質問について「当てはまる」と回答した児童・生徒と「当てはまらない」と回答した児童・生

徒の平均正答率の差を示しています。この差が大きいほど質問項目と学力との相関関係が高いことを表しています。児童への59の質問の中で相関関係が高かった14の項目について差の大きい順に並べています。学習面においては、次の項目と学力の間に大きな相関関係がみられます。

「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」

「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」

「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」

「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」

「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」

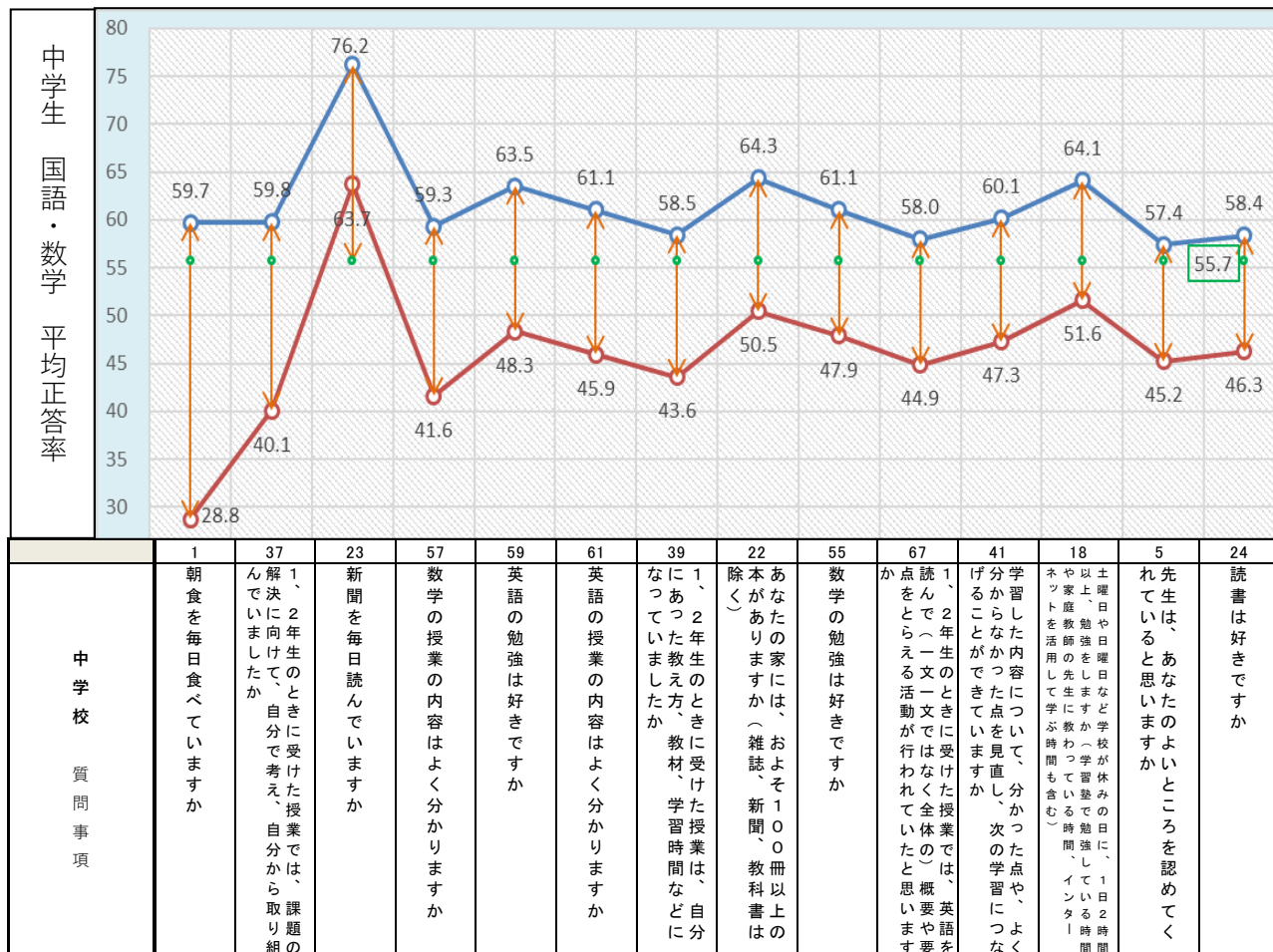
これらの項目は、「主体・対話的で深い学び」に関わるものばかりです。将来の予測が困難な「VUCA」と言われる時代においては、「主体性」「リーダーシップ」「創造力」「課題設定・解決能力」「論理的思考」「表現力」「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材が期待されています。これらの資質・能力をより一層確実に育むため、「**学びの転換**」が今求められています。全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、北広島市全教職員が授業改革に積極的に取り組んでいきましょう！

教師の一斉授業から子ども主体の学びへ、Teaching から Coaching へ

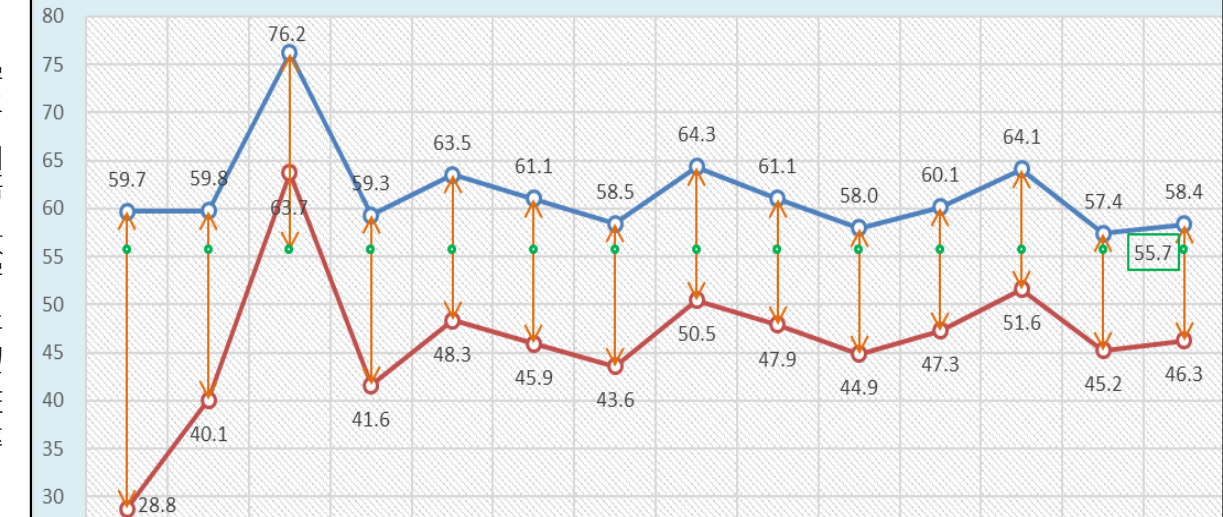
学びの転換 子どもたちに委ねる授業 「ステップ3」のイメージ

- 【**自立した学習者**】 児童生徒が課題解決に向け、自らの学習方法を考え、取り組んでいる授業
- 【**学習活動を複線化**】 児童生徒が個別に課題の解決に向け、学習活動に取り組んでいる授業
- 【**主体的に ICT を活用**】 探究的な学習過程の中で、児童生徒自身が、各種ソフトや機能を目的に応じて選択・活用している授業

【参考】中学生のクロス集計



中学生
国語・数学
平均正答率



中学校	1	37	23	57	59	61	39	22	55	67	41	18	5	24
質問事項	朝食を毎日食べていますか	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	新聞を毎日読んでいますか	数学の授業の内容はよく分かりますか	英語の勉強は好きですか	英語の授業の内容はよく分かりますか	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあっていた教え方、教材、学習時間などにならっていましたか	あなたの家には、およそ100冊以上の本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）	数学の勉強は好きですか	か	学習した内容について、分かった点や、よく分かった点ができていますか	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日2時間以上、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか	読書は好きですか



緑陽中学校区

小中一貫教育の取り組み



緑陽中学校区では、「つたえる・つながる・つづける」を合い言葉に、中学校卒業時の子どもたちがどうあってほしいかを小中の全職員でイメージし、それを実現するため、日々実践を重ねています。

今年度は、小中それぞれの校内研修において、小学校の教員が中学校の、中学校の教員が小学校の研究授業を参観し、研究協議にも参加。活発に意見を交流することができました。小中お互いの日々の授業を自由に参観してもいいことになっていることが、研究協議への参加の垣根を低くしたように思います。小学生にとって、中学の先生と顔なじみになることで、中学入学時のスタートの不安がほんの少しでも解消されるのではないかと、というメリットも感じています。

その他、生活・学習スタンダード作りなど、新たに取り組んでいることもあります。今回は、小中一貫教育の集大成「みどりのまなび」を紹介します。



みどりのまなび

緑陽中学校区では、小中一貫教育の1年間の集大成として、11月25日の土曜授業に合わせ、「みどりのまなび」

(昨年度「緑 de manabi」という名称だったものをリニューアルし、今年で2回目)を開催します。**(インフルエンザのために延期)**

これは、中学生が自分たちで考えた「講座」を開き、中学生が小学生に「教える・一緒に学ぶ」というやり方で、運営します。(小学1年生と中学3年生は、家庭科の授業として保育実習の交流)。

講座の内容を考えるのはもちろん、どう講座を進めたらいいか、当日必要なものは何か、小学生に楽しんで学んでもらうためにはどうすればいいか、当日の運営などなど、すべて中学生が行います。

小学生も中学生も学年を縦割りにし、希望の講座(小学生は一人二つ)に参加します。

当日は、同じ内容の40分の講座を2

回行う(受講する小学生は入れ替わる)ので、1回目が終わったあとの休み時間に、中学生は1回目の反省をし、2回目の講座でその反省をリカバリーします。

今年の中学1年生は去年の「緑 de manabi」を覚えていて、「小学生はこうしてもらった方がいいと思っている」「この内容だと小学生には難しい」などと講座ミーティングで意見を出しています。



当日までの流れは以下のとおりです。

1. 全校アンケート④
(どんな講座がいいか・自分たちができること、伝えられることは何か)
2. 生徒会役員による講座決定④
(アンケート結果を踏まえて)
3. 個人の希望講座選択・決定④
4. 講座ごとのミーティング④
(内容の計画・講座名決定など)
5. 個人の希望講座選択・決定④
6. 講座ごとのミーティング④
(準備・練習・リハーサルなど)
7. 当日の運営・振り返り



*掲載の写真は去年の「緑 de manabi」のものです。

当日は「地域公開日」なので、地域の人たちにも、緑陽中学校区の子どもの様子を自由に参観いただいています。子どもたちの生き生きした姿を見られたことを、今から楽しみにしています。

<みどりのまなび講座一覧>

講座	講座名	おおまかな内容	場所	
A	にがてでもできるドッチボール	ドッチボールやドッチビーを通して体を動かします。中学生から上達のコツや楽しさを学びます。	緑陽中学校 体育館(半面)	
B	キラキラステンドグラス工房	中学校の文化祭で取り組んでいるステンドグラス。切ったり貼ったり、楽しく作品を作ります。		ランチルーム
C	ちょあちよあバリポー(ミニバレー)	ミニバレーを通して体を動かします。中学生と一緒にチームで協力することの楽しさを学びます。		体育館(半面)
D	クイズで増やそう知識考察・クイズ教室	〇×クイズやシルエットクイズなど、いろんな形のクイズを作って楽しく学びを深めます。	音楽室	
E	ミッション:クラフト大成功を目指せ!(工作)	紙コップやストローで動くおもちゃを作ります。上手にできるように中学生がサポートします。	緑ヶ丘小学校	
F	イランクラブ アイヌの世界へ!	アイヌ語クイズやアイヌ文様などで文化を学びます。ウポボイの体験を生かします。		視聴覚室
G	ワイワイダンス部	リズムに合わせて楽しく体を動かします。中学生のお手本を見ているような振り付けに挑戦します。		オープンスペース
H	ダラダラマンダラ(曼茶羅づくり)	オリジナル曼茶羅(まんだら)作りや塗り絵に挑戦します。独特な模様と奥深さを体験します。		家庭科室
小1中3	家庭科 保育実習	保育の授業(中学校家庭科)としておこないます。手作りおもちゃで小学1年生と交流します。	体育館	